

## 附属高校のこれからの学び

—本校が目指す資質・能力の育成に向けて—

研究部 川瀬 英幹

本校の生徒たちが、社会に出て活躍するための力を「人生を切り拓く探究力」と定め、「新たな価値を創造する力」「他を受け入れ協働する力」「主体的に学び続ける力」を身につけさせることを目指す。

また、その先の進路実現において、「地域と協働し、子どもを成長させられる小中高特などの教諭」「多様性を理解し、周囲と協働して地域社会で活躍できる人材」を目指す。そのためのコンテンツとして「附高ゼミ」「個人端末」「高大連携」を活用する。

<キーワード> 求められる力 探究力 探究活動 個人端末 高大連携

### 1. はじめに

平成 30 年告示の高等学校学習指導要領解説 第 1 節 1 改訂の経緯 では、昨今の世界情勢を踏まえた方針が示されている。

これからの時代を「厳しい挑戦の時代」と予想し、社会のあり方は「予測困難」で「一人一人が持続可能な社会の担い手」となり、「新たな価値を生み出していくことが期待される」と述べる。このような時代において、学校教育は「子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中での目的を再構築することができるようにすること」が要求される。

このような状況下で、平成 26 年（2014）年 11 月に、新しい時代にふさわしい学習指導要領のあり方について中央教育審議会に諮問を行い、平成 28（2016）年 12 月、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」が示された。ここでは、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、学習 1 改訂の経緯 第 1 章 総説 2 にあるように、「指導要領等が、学校、家庭、地域の関係者が幅広く共有し活用できる「学びの地図」としての役割を果たす」ために、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「子供一人一人の発達をどのように支援するか」「何が身についたか」「実施するために何が必要か」の 6 点の枠組みの改善と、「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すことなどが求められると述べている。

### 2. 社会に出て求められる力とは何か

では、本校の生徒たちが、社会に出て活躍するためにはどのような力が必要なのかが気になってくる。そこで、今までどのような力を求められて来たのかを調べてみた。

2003 年 内閣府

「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」

として、「人間力（知的能力的要素、社会・対人関係力的要素、自己抑制的要素）」を提言。

2004年 厚生労働省

「企業が採用に当たって重視し、基礎的なものとして比較的短期間の訓練により向上可能な能力」として、「就職基礎力（コミュニケーション能力、職業人意識、基礎学力、ビジネスマナー、資格取得）」として提言。

2006年 経済産業省

「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な能力」として、「社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）」を提言。

2008年 文部科学省

「学士力（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力）」を提言。

各省庁が上記のような社会人としての力が必要であると述べてきた。

さらに、2017年9月「人生100年時代構想会議」が開催された。「人生100年時代」とは、英国ロンドンビジネススクール教授のリンダ・グラットン氏の著書『LIFE SHIFT』で提言された言葉である。80年でイメージしていたライフコースを100年で見直す必要を説いており、その中で、人は従来の「教育を受ける」「仕事をする」「引退して余生を過ごす」のモデルは大きく変化し、個人の状況において、3つのステージを行き来するように変化すると述べている。また、必要性が増すものとして、「教育」「多様な働き方」「無形資産」であると述べている。

また、経済産業省は2017年に、「人生100年時代」を踏まえて、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「どう活躍するか」の新たな3つの視点を加えている。

社会人に求められる様々な力だが、大別すると「主体的な行動力」、「チームワーク」、「創造力」といった内容になりそうである。

### 3. このような時代において、本校が生徒に身に付けさせたい力とは

先に引用したように、平成30年告示の高等学校学習指導要領解説 第1節 1 改訂の経緯にあるように、学校教育において、「子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中での目的を再構築することができるようにすること」が要求されるとある。附属高校では、この指導要領の改訂を受けて、本校の生徒が「何を」「どのように」学び、「何ができるようになるか」を明示できるよう検討を重ねてきた。そこで、本校での学びを樹に見立てて、「附属高校 学びの樹」とした（図1）。

その中で、メインテーマとして「人生を切り拓く探究力」という言葉が決定、それを具体的に目指すために、「新たな価値を創造する力」「他を受け入れ協働する力」「主体的に学び続ける力」を下に配置した。これらの力を総合し、「人生を切り拓く探究力」を身に付けるという関係性においた。

進路実現の目指す先として、「地域と協働し、子どもを成長させられる小中高特などの教諭」「多様性を理解し、周囲と協働して地域社会で活躍できる人材」を想定した。

### 4. 今後の取組

附高ゼミ：探究活動の中心的な位置付けとして設定。総合的な探究の時間を中心に、自らの興味に応じて探究活動を深めていきます。

個人端末：令和4年度より個人端末としてiPadを選択。附高ゼミを中心に、通常の授業においても

活用していくことを計画している。また、様々なデータを自己管理することで、自らが「何を」「どのように」学んできたのか、「何ができるようになったか」がわかるようになると考えられる。また、GIGAスクール構想のリーフレットで述べられているように「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力がいっそう確実に育成できる」環境整備を目指す。

高大連携：長年にわたり高大連携スクールという講座を行ってきた。高校と大学教員が連携し、20講座を準備し、生徒はその講座を受けて、学びをポートフォリオにするというものである。その他、1年次には研究室訪問として、大学の研究室に伺い、研究するとは何か、対象にどのようにアプローチするのかを知る機会としている。各教科での大学との連携も行われており、多くの行き来の機会もある。ICT機器の活用も含め、形は変化すれど、より深い連携を目指していけるよう検討を重ねていきたい。

## 5. 参考資料及び引用資料

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編

[https://www.mext.go.jp/content/20200716-mxt\\_kyoiku02-100002620\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200716-mxt_kyoiku02-100002620_1.pdf)

「人生100年時代」を踏まえた「社会人基礎力」の見直しについて 平成29年10月 産業人材政策室

[https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/sansei/jinzairyoku/jinzaizou\\_wg/pdf/001\\_02\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/sansei/jinzairyoku/jinzaizou_wg/pdf/001_02_00.pdf)

文部科学省（2020）「（リーフレット）GIGAスクール構想の実現へ」

[https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt\\_syoto01-000003278\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_syoto01-000003278_1.pdf)

【図1】

